

科目名	博物館概論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。学芸員課程科目のうち初年次に履修する基礎的な科目として、博物館に関する基礎的知識を理解し、専門性の基礎となる能力を養うことを目的としている。

科目の概要

博物館の歴史および今日の博物館の目標、事業、組織、運営形態などを概観し、博物館の定義、機能、存在意義について、博物館を利用する社会との関係において理解する。

授業の方法（ALを含む）

博物館的施設の歴史や、博物館法に基づく博物館の定義、博物館の機能と役割について講義を中心とした授業を行う。また、実際に博物館に複数回見学会を行い、一般来館者としてではなく博物館側の視点で博物館を理解することを学修する。

到達目標

現代社会における博物館の役割や意義を学び、学芸員の使命や活動内容の理解する。また、今日の日本の博物館における目標、事業、組織、運営形態を、諸外国の事例と比較することで、現状の整理・把握をする。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素を取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	博物館の歴史
3	博物館の定義
4	博物館の機能と存在意義
5	博物館資料の収集・保存・管理
6	博物館資料の研究・展示
7	日本の博物館の歴史
8	日本の博物館の種類
9	日本の博物館の活動（見学授業）
10	博物館の運営形態

11	展示の企画と運営
12	博物館展示と教育普及活動
13	学校教育との連携
14	生涯学習の場
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】日本国内にはさまざまな種類の美術館・博物館があるので、その多様な活動内容や収蔵品について調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、なるべく多くの種類の博物館を訪れてみる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（現代社会における博物館の役割や意義を学び、学芸員の使命や活動内容の理解する30%、今日の日本の博物館における目標、事業、組織、運営形態を、諸外国の事例と比較することで、現状の整理・把握をする30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【参考図書】授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

博物館や学芸員についての入門編であるので、この分野に関心のある学生には積極的に履修して欲しい。

科目名	博物館経営論		
担当教員名	岡部 昌幸		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

実務経験および科目との関連性

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得のための必修科目

科目の概要

博物館の経営基盤、経営、連携について、具体例をもとに検証し、その理念を探求させて、より深い学習に導く。ミュージアムマネジメント、組織について、意味と意義を説明し、経営の実際に必要な施設設備や行政制度、財政制度を理解させ、博物館組織論と危機管理の現状を解説する。学外の博物館施設を見学し、実情を把握させて、博物館評価を行い、レポートを課し、考察を深める。マーケティング活動とミュージアムショップの経営を課題作成により学習する。企業メセナや地域ネットワークについても考究する。

授業の方法 (ALを含む)

到達目標

博物館の使命と組織形態、ならびに実際の管理、活動、運営の方法について理解し、博物館を運営すること (ミュージアムマネジメント) の基礎的能力を養う。

内容

1	美術館博物館の経営基盤、ミュージアムマネジメント、行財政、財務
2	展示、建築、設備、運営、活動等の新企画とリノベーション
3	組織と職員、博物館倫理
4	博物館のミッション、計画、評価と地域社会、危機管理
5	グローバル化と館長の使命
6	学外博物館施設見学、施設に関する講義
7	学外博物館施設見学、運営に関する講義
8	利用者論、広報・マーケティング、ミュージアムショップ
9	博物館のさまざまな連携 - 教育、行政、市民、ネットワーク、ボランティア
10	博物館の活動、ワークショップ
11	地域社会・国際関係と博物館建築・機能
12	多目的施設内の博物館、エコミュージアムとしての博物館
13	コレクションの形成 (1) 個人コレクション

14	コレクションの形成(2) 寄贈の受け入れ
15	美術館博物館と国際社会

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】それぞれの授業内容を確認し、前の授業で予告したテーマについて1時間の予習をする

【事後学修】授業内容について、指摘した問題点についてそれぞれが解答し、博物館を見学し、その結果を提出する

評価方法および評価の基準

課題作成2件、および学期末レポートを提出するものとし(80点)、平常点20点を加えて総合評価60点以上を合格とする。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】『改訂版すぐわかる画家別西洋絵画の見かた』(東京美術)、さらにプリントを配布する

【推薦書】授業内で指示する

【参考図書】教室で紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	博物館資料論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。博物館資料の収集、整理保管等に関する理論や方法に関する知識・技術を習得し、また博物館の調査研究活動について理解することを通じて、博物館資料に関する基礎的能力を養う。

科目の概要

博物館における資料の収集、研究、公開・普及、保存・管理について取り上げ、その資料の価値の共有をはかりながら適切に将来に引き継ぐという役割について考察する。

授業の方法（ALを含む）

博物館法に規定される博物館の役割である資料の収集、研究、公開・普及、保存・管理について講義するとともに、実際に博物館に赴いて資料活用の実際のあり方を学修する。

到達目標

資料保存について基礎的な知識を取得する。そのみならず、資料利用、資料展示(公開)、博物館教育活動、情報メディアなどとの関連性を理解する。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素を取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	博物館の活動と資料
3	モノから博物館資料へ
4	博物館における資料の収集
5	資料に関する研究
6	データベースの作成
7	調査研究成果の社会還元
8	資料公開の準備
9	博物館資料を活用した教育普及
10	資料を公開する設備とコンディション

11	資料の保存
12	公開と保存のバランスに関する問題
13	資料の修復
14	アーカイブ資料とは何か
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】国内外の博物館の収蔵資料にはどのような種類のモノがあるのか、書籍やWEBサイトで調べておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】ノートを見返して、授業の内容を見直しておく。また、実際の博物館を訪れて、資料公開の現場を知るように心がける（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（資料保存について基礎的な知識を取得する40%、資料利用、資料展示（公開）、博物館教育活動、情報メディアなどとの関連性を理解する20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【参考図書】授業内で指示する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	博物館資料保存論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。博物館における資料保存及びその保存・展示環境及び収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための知識を習得することを通じて、資料の保存に関する基礎的能力を養う。

科目の概要

博物館において資料を保存・修復する事の意義や、望まれる保存環境についての知識を学ぶ。博物館資料は物理的な存在であるがゆえに、その経年劣化は避けることができないが、それを最小限にとどめるため、劣化の原因を理解し、対策を講じ、場合によっては適切な資料を施す必要がある。資料保存と公開の両立の問題点等について学び、資料保存に関する基本的な知識と技術についての理解を深める。

授業の方法（ALを含む）

資料保存に関する事例を講義するとともに、資料保存環境測定機器を使用した演習や、資料の梱包の実習作業も行う。

到達目標

資料を永続的に保存するために必要な知識を修得する。また、知識のみならず資料保存に係わる基礎的な技術を自ら行うことができる。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素を取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	資料保存の意義
3	状態調査と現状把握
4	資料の劣化要因と対策 温室度・光
5	資料の劣化要因と対策 大気
6	資料の劣化要因と対策 文化財害虫
7	資料の劣化要因と対策 資料の取り扱いと輸送
8	資料の劣化要因と対策 災害
9	伝統的保存環境

10	資料の保存環境 収蔵庫
11	資料の保存環境 展示室・展示ケース
12	修復 東洋の書画
13	修復 東洋の工芸
14	環境保護と博物館の役割
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 博物館資料の様々な種類について予習しておく（各授業に対して60分）。

【事後学修】 ノートを見返して授業の内容を見直すとともに、実際に博物館を訪れて資料を保存状態という観点から熟視する（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（資料を永続的に保存するために必要な知識を修得する40%、資料保存に係わる基礎的な技術を自ら行うことができる20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】 毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 プリントを配布する

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	博物館展示論		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	演習	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら講義する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。展示の歴史、展示メディア、展示による教育活動、展示の諸形態等に関する理論及び方法に関する知識・技術を習得し、博物館の展示機能に関する基礎的能力を養う。

科目の概要

博物館における展示の歴史・意義を認識し、現代の博物館が担う展示事業のミッション、方法、組織、運営の基礎を学ぶ。展示の立案から調査、リスト作成、広報、カタログ製作、資料の集荷と展示、展示解説や音声ガイド等の来館者サービス、教育普及プログラムまでの一連の流れを概観し、学生自身が演習的に展覧会開催のシミュレーションを行う。

授業の方法（ALを含む）

展覧会をつくる諸業務の流れを講義するとともに、学生に各自のテーマを定めた展覧会を企画させる。展示のコンセプト立案やポスターの制作の演習を行う。

到達目標

展覧会を企画するにあたり、一連の流れを理解する。展示資料の選択・資料を陳列する順番・展示方法を組み立てることができる。総合的に展覧会を企画する基礎能力を修得する。

内容

この授業は講義を基本に、見学会、資料を用いた実習的要素、ワークショップ的要素、発表とディスカッションを取り入れながら、学びを深めてゆく。

1	イントロダクション
2	博物館における常設展と企画展
3	個別の博物館の成立・性格と展示
4	企画の立案
5	資料調査とリスト作成
6	所蔵機関と関係者
7	展示に関する諸条件
8	リストの確定から展覧会実施へ

9	広報印刷物類
10	資料集荷と展示作業
11	展示解説と音声ガイド
12	講演会・ワークショップ
13	学生による企画の発表 Ⅰ
14	学生による企画の発表 Ⅱ
15	まとめ

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】なるべく多く博物館に足を運び、実際の展覧会がどのように構成されているかなど常に問題意識を持つ（各授業に対して60分）。

【事後学修】授業で学んだことを、自分自身の展覧会企画に反映させる（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、筆記試験60%（展覧会を企画するにあたり、一連の流れを理解する10%、展示資料の選択・資料を陳列する順番・展示方法を組み立てることができる20%、総合的に展覧会を企画する基礎能力を修得する30%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	博物館教育論		
担当教員名	栗山 究		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

公立博物館で教育事業を担当した経験をもつ教員が、教育活動の実際と今後の展望について解説する機会があります。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法 (ALを含む) 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文部科学省令で定められた、大学における学芸員資格課程の必修科目で、経営論・資料論・資料保存論・展示論・情報メディア論とともに博物館学系科目を構成する各論の一つです。

博物館における教育活動の基盤となる理論や実践に関する知識と方法を習得し、博物館の教育的役割を考察します。

科目の概要

博物館における事業や活動の理論的・実践的意味を具体的な事例に即して学び、博物館における学びとその学びを支える人たちの役割を考察します。博物館における事業や活動を、学習・研究や運動等を総体した教育実践として捉える視座を獲得するための基礎的な理解を深めていきます。

授業の方法 (ALを含む)

講義内容と関連して毎回、教員との意見や感想のやりとりのほか、適宜、受講者相互の学びあい促されるようなグループでの協同課題を実施し、展開していきます。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】

到達目標

博物館を通して、私たちはどのような学びや学びあいをつくりだせるか、博物館における学びを支える人たちの役割とは何かを意識して学修してください。地域博物館における教育実践を探究していく基礎的な分析枠組みを理解し、博物館における学びを支える人たちの実践を分析できるようになります。

自分の考えや意見を簡潔に表現し、他者へ円滑に伝えていく方法を、検討できるようになります。

内容

- ・リアクションペーパーは原則、翌週以後の授業内で返却し、執筆内容は授業内でも活用していきます。
- ・授業計画は、受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じて、ある程度変更していく可能性があります。
- ・希望に応じて夏季休暇中に、受講者有志による博物館見学会を実施する予定です。

1	オリエンテーション：学芸員資格課程カリキュラムの歴史と博物館教育論の位置づけを考える
2	博物館における教育の構造(1)：これまでの教育経験をふりかえる 【グループワーク】
3	博物館における教育の構造(2)：「学び」という観点から教育を捉えかえす 【グループワーク】

4	社会教育施設である博物館（1）：法制度から見た施設・学習支援者の原則とその役割を学ぶ
5	社会教育施設である博物館（2）：博物館と学校教育・社会教育の関連を考える 【グループワーク】
6	社会教育施設である博物館（3）：課題の報告会を通してこれまでの学習を整理する 【プレゼンテーション】
7	欧米と日本で展開してきた近代博物館教育の議論（1）：外部システム論の基本的特徴、意味と課題を学ぶ
8	欧米と日本で展開してきた近代博物館教育の議論（2）：内部システム論の基本的特徴、意味と課題を学ぶ
9	学校教育における博物館の活用（1）：博物館と学校教育、学習指導要領との関連を歴史的に概観する
10	学校教育における博物館の活用（2）：博物館を活用した学校の授業の実際と課題を把握する
11	地域社会に根ざした博物館の教育実践：代表的な公立博物館を事例に検討する
12	地域における学芸員の実践分析：学芸員の実践過程を分析する 【グループワーク】
13	地域博物館実践の展開と課題：住民の学びから開設した博物館を事例に分析枠組みを検討する
14	学びを支える人たちの役割の検討：学期末レポートのグループ別・全体報告会 【グループワーク】【プレゼンテーション】
15	まとめ：本科目の学修内容をふりかえり、これまでの学習の理解度の確認を行う

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 各回60分を目安とします。

- (1) 前年度までに履修した博物館に関する科目の学習内容を整理する（1回）
- (2) リアクションペーパーでやりとりした内容をふりかえる（2回～15回）
- (3) グループワークに取り組むための各自の課題をレジメにまとめて準備する（2・3・5・12回）

【事後学修】 各回60分を目安とします。

- (1) 各回のポイントを各自のノートに整理し、理解できるところとできないところをまとめる（1回～14回）
- (2) プレゼンテーションの準備、学期末レポート等の提出に向けて各自の調査研究に取り組む（6・13～15回）
- (3) この授業で学んだことをどのように活かしていくかを考える（15回）

評価方法および評価の基準

(1) 学習の理解度の確認：37%、(2) 学期末レポート：38%、(3) 平常点：25%（リアクションペーパーの提出、グループワークでの貢献や課題への取り組み）とし、総合評価60点以上を合格とします。

但し、2/3以上の出席回数を満たしていること、上記(1)(2)に取り組むことが、単位修得の前提です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。各回テーマに応じて、担当教員が作成して配布します。

【推薦書】

- (1) 下記のほか、初回および各回の講義内で文献一覧を提示します。
 - ・君塚仁彦・名児耶明編（2012）『現代に生きる博物館』明石書店
 - ・小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄編（2012）『博物館教育論 新しい博物館教育を描きだす』ぎょうせい
 - ・浜田弘明編（2014）『シリーズ現代博物館学 博物館の理論と教育』朝倉書店
- (2) ジョン・デューイの著作（「学習と社会」など）を1冊読んでおくと、授業内容の理解がより深まります。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

さまざまな博物館や関連施設を訪問する、実践の現場に参画する、推薦書を読んでもみるなどして、自らの学びを積極的に深めていってください。

自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に評価し、応援していきます。

科目名	博物館情報・メディア論		
担当教員名	栗山 究		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	2	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	講義	単 位 数	2
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

授業の後半期（第12回を想定）に、近隣の公立博物館に訪問し、学芸員資格をもって働く職員による案内のもと、博物館資料・情報の組織化の実際を学ぶ機会を設ける予定です。

この訪問をもとに、第11回予定の学習内容を体験を通して振り返るとともに、博物館資料・情報の組織化の意義を、受講生一人ひとりが言葉にできるようにしていきます。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

文部科学省令で定められた、大学における学芸員資格課程の必修科目で、経営論・資料論・資料保存論・展示論・教育論とともに博物館学系科目を構成する各論の一つです。

博物館における情報の意義と発信の課題を理解することで、博物館情報の提供や活用に関する基礎的な知識と方法を習得します。

科目の概要

前期の教育論で学修した博物館の教育実践の場を「情報発信の媒体装置」として捉えなおすことで、さまざまな情報が取り交わされる博物館の現代的状況への理解を深めていきます。

デジタル方式の情報通信技術が革新する現代社会において、情報発信の手段である視聴覚メディアの特性、博物館資料の情報を記録・管理し組織化することの有用性や諸課題について、具体的な実践事例をもとに考察します。

授業の方法（ALを含む）

講義内容と関連して毎回、教員との意見や感想のやりとりのほか、適宜、受講者相互の学びあいが促されるようなグループ形式での協同課題を実施し、展開していきます。

後半期は、インターネットを活用した演習や現地見学会を計画する予定です。

【リアクションペーパー】【グループワーク】【プレゼンテーション】【フィールドワーク】

到達目標

博物館における多様な情報を、私たちはいかに活用するかを意識して学修してください。メディアとして博物館の機能的役割を認識することができるようになります。

インターネット上で公開される資料管理データベースの構築の背景を理解し、現状と課題を踏まえて使いこなせるようになります。

内容

- ・リアクションペーパーは原則、翌週以後の授業内で返却し、執筆内容は授業内でも活用していきます。
- ・授業計画は、受講者相互の問題意識や興味関心の程度に応じて、ある程度変更していく可能性があります。
- ・前期の教育論を事前に履修しておくことが望ましいです。
- ・希望に応じて冬季休暇中に、受講者有志による博物館見学会を実施する予定です。

1	オリエンテーション：前期の教育論の学修内容をふりかえり、本科目で学ぶ意義と背景を捉える
2	地域における学芸員の実践分析（復習）：事業に参画した学習者の学習過程に学ぶ
3	「メディアとしての博物館」という視座：前回の学習内容をメディア論の視座から捉えなおす
4	博物館で活用するメディアの種類とその特性：具体的な活用事例を探る 【グループワーク】
5	情報通信技術の活用：課題の報告会を通してこれまでの学習を整理する 【プレゼンテーション】
6	各種教材の開発（1）：代表的な展示実践事例から意義と課題を検討する
7	各種教材の開発（2）：情報発信側の視点から博物館資料の特性を再考する 【グループワーク】
8	学習者理解の変遷（1）：映像メディアの歴史と理論を学ぶ
9	学習者理解の変遷（2）：コミュニケーションの場という観点から博物館実践の意味と課題を考える
10	デジタル化時代と博物館資料：文書館や図書館における実践動向と関連して理解する
11	博物館資料・情報の管理と公開（1）：博物館資料・情報の組織化の具体的プロセスと課題を学ぶ
12	博物館資料・情報の管理と公開（2）：博物館資料・情報の組織化の実際を学び、前回の学習内容をふりかえる 【フィールドワーク】
13	博物館と知的財産（1）：情報端末を使用して意義と課題を検討する / 著作権法の概要と著作物利用等の要点を学ぶ 【グループワーク】
14	博物館と知的財産（2）：著作物の権利処理や個人情報の取り扱い等を考える 【グループワーク】
15	まとめ：本科目の学修内容をふりかえり、これまでの学習の理解度の確認を行う

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 各回60分を目安とします。

- (1) 博物館教育論で修得した学習内容を整理する（1～3回）
- (2) リアクションペーパーでやりとりした内容をふりかえる（2～15回）
- (3) グループワークやフィールドワークに取り組むための各自の課題をレジメにまとめて準備する（4・7・10～14回）

【事後学修】 各回60分を目安とします。

- (1) 各回のポイントを各自のノートに整理し、理解できるところとそうでないところをまとめる（1回～14回）
- (2) プレゼンテーションの準備、学期末レポート等の提出に向けて各自の調査研究に取り組む（3～6・10～15回）
- (3) この授業で学んだことをどのように活かしていくかを考える（15回）

評価方法および評価の基準

(1) 学習の理解度の確認：36%、(2) 学期末レポート：34%、(3) 平常点：30%（コメントペーパーの提出、現地見学会の参加、グループワークでの貢献）とし、総合評価60点以上を合格とします。

但し、2/3以上の出席回数を満たしていること、上記(1)(2)に取り組むことが、単位修得の前提です。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しません。各回テーマに応じて、担当教員が作成して配布します。

【推薦書】下記のほか、初回および各回の授業内で文献一覧を提示します。

- ・日本教育メディア学会編（2013）『博物館情報・メディア論』ぎょうせい。
- ・村田麻里子（2014）『思想としてのミュージアム ものと空間のメディア論』人文書院。
- ・光岡寿郎（2016）『変貌するミュージアムコミュニケーション：来館者と展示空間をめぐるメディア論的想像力』せりか書房。

・稲村哲也・近藤智嗣編（2018）『博物館情報・メディア論』放送大学教育振興会。

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

さまざまな博物館や関連施設を訪問する、紹介したインターネットサイトやデジタルアーカイブにアクセスしてみる、実践の現場に参画する、推薦書を読んでみるなどして、自らの学びを積極的に深めていってください。

自分なりに学んだ内容をふりかえり、その内容を探究していこうとする姿勢や行動は、積極的に評価し、応援していきます。

科目名	博物館実習		
担当教員名	樋口 一貴、小林 明子		
ナンバリング			
学科	人間生活学部（K）-学芸員課程（K）		
学年	3	クラス	
開講期	後期	必修・選択の別	必修*
授業形態	実習	単位数	2
資格関係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら実習指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

学芸員資格取得課程科目である。学内実習を通し、資料の取扱、展示、博物館運営等学芸員の実務業務を理解し、実践的能力を養う。また、実際の博物館における展示を見学して現場で資料がどのように扱われているかを学修し、授業内でその気づきを共有・意見交換する。

科目の概要

学外での実務実習に備え、実際に資料に触れ、資料に対する心構えと取り扱いの実際を学ぶ。社会人としてのルール、また学芸員の仕事、倫理、マナーを身につける。また学外の美術館の見学実習をおこない、多様な施設、活動についても理解を広げる。

授業の方法（ALを含む）

2コマ連続の実習で、個々の博物館資料の取り扱い方や調書の取り方を実践する。また、博物館に赴き、実際の現場での資料の展示環境を学修する。

到達目標

博物館学芸員資格取得課程の諸講義で学んだ知識をふまえ、絵画・版画・陶磁器それぞれの実際の資料の取り扱いの実技を身につける。

内容

博物館学芸員に必要な資料の取り扱いの技術を実践的に学ぶ。書画、版画、陶磁器の扱いについて、それぞれの素材や加工法による特質や留意点を理解し、資料の安全性を第一に考えた方法を学修する。また資料を収める箱や風呂敷など梱包具、展示ケース等の展示具、展示環境の温湿度を一定に保つ方法に関する知識も理解する。

実習に当たっては準備や片付けの時間も多く見込まれるため、合計15回の授業時間を柔軟に使用して、効率の良い実習を行う。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】 博物館資料（書画、版画、陶磁器）の特質を予習し、安全な取り扱いに備える（各授業に対して60分）。

【事後学修】 取り扱いは授業時間内だけで身につくものではないので、類似品・模造品を使うなど工夫して各自技術の習

熟度を深める（各授業に対して60分）。

評価方法および評価の基準

授業への参加度20%、授業内レポート20%、実習60%（絵画の取扱20%、版画の取扱20%、陶磁器の取り扱い20%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】毎授業の冒頭で、前回授業のリアクションペーパーの質疑やコメントを取りあげて全員で共有し、回答・詳説することで理解を深められるようにする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 プリントを配布する

【推薦書】・【参考図書】 授業内で適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など

科目名	博物館実習		
担当教員名	樋口 一貴		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (K) - 学芸員課程 (K)		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態	実習	単 位 数	1
資 格 関 係	学芸員資格		

実務経験の有無

有

実務経験および科目との関連性

博物館（美術館）で学芸員として勤務経験を有する教員が、資料の扱い方や展示方法を実際に示しながら実習指導する。

ねらい 科目の性格 科目の概要 授業の方法（ALを含む） 到達目標 ディプロマ・ポリシーとの関係

科目の性格

「博物館実習」を履修して修得した知識と技能を前提とし、各自が博物館で実務実習にあたる。

科目の概要

「博物館実習」で学んだ資料に対する心構えと取り扱い、及び学芸員の仕事、倫理、マナーを身を理解した上で、実際の博物館で実務の実習にたずさわる。受入館の日程に合わせ、おおよそ1週間の実習を行う。実習内容は、受入館のプログラムに従う。

授業の方法（ALを含む）

博物館実習の内容は受入館園の実施するプログラムによる。各学生が実習に赴く事前・事後に指導を行う。

到達目標

実際の博物館の現場において行われる多様な業務を理解する。学芸員としての対応を実践的に行うことができる。

内容

後期集中講義とする。全体および個別のガイダンスを適宜行ったのち、各自が実習受入館園の日程に合わせ、1週間程度の実習に出向く。事前に実習先館園の性格や収蔵資料、活動内容などをよく自習しておく。また、一連の既履修の学芸員課程科目を復習し、特にかけがえのない資料の安全な取り扱いを心がける。実習期間中は、学生としてではなく、学芸業務のスタッフの一員である自覚を持ち、館園の指導に従い、社会人かつ博物館人として何が相応しい行動であるかを常に考え実行する。

各授業回における授業外学習の内容・所要時間

【事前準備】「博物館学」で学んだ博物館資料の安全な取り扱い、学芸員としての仕事のマナーを復習しておく（各実習日に対して60分）。

【事後学修】現場で実習を受けるという貴重な機会を得たことの重要性を理解し、社会人として博物館にたずさわる心構えをレポートにまとめる（各実習日に対して60分）。

評価方法および評価の基準

実習への出勤40%、まとめレポート30%（実際の博物館の現場において行われる多様な業務を理解する）、実習館からの評価コメント30%（学芸員としての対応を実践的に行うことができる）

とし、総合評価60点以上を合格とする。

【フィードバック】実習前に個別面談を実施し、事前学修の深度を確認する。また、実習前・実習中の質問を適宜受け付ける。実習後には、実習ノートおよびレポートを提出させ、コメントを返す。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習ノートを配布する

【推薦書】・【参考図書】適宜紹介する

学習上の助言、教員からのメッセージ、履修上の注意点など